

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 2 年 3 月 16 日

事業所番号：1350300347

事業所名：すてっぷわん



		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		子どもたちの実態や特性等に合わせ、スペースの使い方を臨機応変に変化させている	引き続き、子どもたちの様子を見ながら安全面に配慮しつつ、活動内容も踏まえて臨機応変に対応していく
	②	職員の配置数は適切である	9			引き続き人財育成に努めていく
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	1		テナントビルのオーナーとも相談し、できる限り、配慮が行き届いた環境となるよう資金面も含めて検討していく
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9		整理整頓に心がけている	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	3	一部の人に負担がかたよりがち	人財育成を行いつつ、全スタッフの底上げを行っていく
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		日頃からの保護者とのコミュニケーションや面談等にも力を入れている	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		9		第三者機関による外部評価を、5年以内には実施できるよう努めていきたい
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		内外の研修のみでなく、書籍等による研鑽も行っている	もっともっと研修・研究の機会を確保していく
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9			子どもたちのより良い成長・発達を可能にしていくための計画を作成すべく、また、この工程に、どの職員も携われるように、一人ひとりの力量を高めていく
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9			定期的に見直しを図り、バージョンアップを行っていく
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9			子どもたちのより良い成長・発達を可能にしていくための計画を作成すべく、また、この工程に、どの職員も携われるように、一人ひとりの力量を高めていく

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9			質の向上をもっともっと目指していく
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9			意見交換をより活発にするためにも職員の絶対数が増えるといい
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		打ち合わせ等で、意見を多くぶつかり合わせている	集団と個別の、それぞれの一長一短を踏まえつつ、その中で、どれだけ集団療育だからこその効果を見出しつつ、個の状況にも対応していくか、その手立ても含めて、引き続き研鑽を重ねていく
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9			集団と個別の、それぞれの一長一短を踏まえつつ、その中で、どれだけ集団療育だからこその効果を見出しつつ、個の状況にも対応していくか、その手立ても含めて、引き続き研鑽を重ねていく
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		忌憚なく発言できる雰囲気を用意している	もっともっと、意見の出し合いが必要
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	6	主治医や医療機関との直接的な連携はまだ行っていないが、相談支援専門員等を通して間接的に情報を交換している	必要に応じて、直接連携をとっていく
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9		「移行支援」という形ではまだ行っていないが、それに近い形で連携を進めている	引き続き、必要に応じて積極的に連携を取っていく
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9		「移行支援」という形ではまだ行っていないが、それに近い形で連携を進めている	引き続き、必要に応じて積極的に連携を取っていく
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9			
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	9		学童施設や公園等では、個人レベルでの交流を図れるよう促している	地域行事等へは積極的に参加しているが、障害のない子どもたちとの関わりは、個別レベルにとどまっているので、今後、組織的に計画的に交流を図っていけるよう努めていく

	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9			一人でも多くの職員が参加できるように体制を築いていく
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		保護者の方の様々な悩み等を共有する機会が増えてきた	事業所が掌握した課題や想いを、いかに支援につなげていくか、もっともっと議論の場を作っていく
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	9		日々の保護者への報告や保護者会、面談等も含めて、ご家庭でも取り組めることを伝える努力をしている	引き続き、様々なサポートや情報提供ができるよう、研修・研鑽を重ねていく
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		対応窓口を明確にしている	全職員が、正しい知識を身につけて説明責任を果たせるよう努めていく
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1		保護者からの悩みは、関係性が築かれるほど深刻化してきているので、もっともっと職員の対応力を高めないといけない
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9			学年や年齢別による保護者会や、特性に応じた保護者会など、カテゴリー別に開催し、情報交換等がより活発になるような機会を設けられるよう、保護者のニーズも掌握しながら計画を立てる
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		職員の打ち合わせの場を積極的に活用している	職員の人数が増えても、この迅速さや的確さは継続していく
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		メール配信を行っている	ホームページや紙媒体での発信も検討していく
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	9			
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		9	行事そのものを行っていない	地域の方を招くことができるような行事を企画していく
	非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			保護者や子どもたちについては、一人でも多くの人が参加できるように実施計画を工夫していく
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9			
④4		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		9	該当する子どもが通所していない	
④5		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			引き続き、事例を集め、研修等で活かしていく
④6		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			継続的な研修等を通して、一人ひとりの自覚を促していく

	④7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		
--	---	---	--	--

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。